

北海道

株式会社流研

2018年6月24日(日) 北海道新聞 朝刊掲載

## テレワークで優秀な人材を確保

### 社員の採用にも予想以上の反響

#### 育児休暇を終えた社員からのニーズでスタート

一昨年12月に育児休業期間を満了した社員が、保育施設などの不足や通勤時間の問題など実情を相談したことがきっかけで、テレワークの導入を検討。正式には昨年4月より社内規定に入れることになりました。テレワークの導入は対外的にも反響があり、働き方の改革に積極的に取り組んでいる企業にこそ頼みたい仕事ということで仕事の依頼を受けたり、マスコミから取材を受けることもあります。また女性の活躍が注目される時代ですから、採用にも効果的だと思います。

#### 不安だったコミュニケーションも万全

社内では、特に指示をする立場の人間が、タイミング良く適切な指示ができるのかという不安を持つことが少なくありませんでした。ところが実際スタートしてみると、電話・メール・グループウェアなどを駆使して問題なく仕事が進められています。社員のニーズから導入されたテレワークですが、これからはこの制度の対象範囲を広げていくことや、ルールを見直しながら、より効率の良い精度アップした仕組みに進化させていきたいと思っています。



テレワークを導入した  
株式会社流研の川村要専務

### 片道約2時間の通勤時間を節約

#### スカイプやチャットで打ち合わせ

育児休暇中に、家庭の事情で住まいを札幌市内から通勤に2時間程度かかるところに移転せざるを得なくなり、上司に相談したのがテレワークをさせていただいたきっかけです。テレワーク制度活用中は、主にスカイプのモニターで画面を共有しながら数名で打合せをしたり、チャットを活用してやり取りをしています。また月1回出社をして、対面での打合せをしています。仕事内容にもよりますが、コミュニケーションについての不安は、実際テレワークをスタートしてみると何も問題なく解消されました。

#### 時間の有効活用ができ、子育ても安心

自宅と会社を往復すると4時間かかりますので、テレワーク制度を活用することで時間を有効に使えるようになりました。普段仕事中は子どもを保育所に預けていますが、例えば子どもが熱を出したときなど、当社は有給休暇を時間単位で取れますので、それを活用して対応できています。テレワーク制度に当社の時間短縮勤務や時間単位での有給制度をプラスすることで、より有意義な時間を過ごすことができます。



テレワークを利用している  
山崎梨香さん